

文化・芸術



「静物(魚の頭)」

1941年 油彩、カンバス
88・6cm×144・7cm
(広島市現代美術館蔵)

鬚光 (1907～46年)

中央に頭ばかりが異なるかのようです。

様に大きく描かれた魚が、目玉を飛び出さんばかりに口を開け置かれています。尾ひれは針のように鋭く上空に向かっています。先をたどれば、不可思議な距離感のなかに飛行するものがあり、そればかりもクマンバチともいわれてきました。

再び魚の口元に目を戻し見れば、そこにはざらついた質感で青白く照らされた物体が寒々と屹立しています。名づけがたいそのモノは朽ち果てようとする寸前のもうひとつの魚の頭でもあったでしょう。隣り合う褐色の物体を浸食してい

大川美術館企画展から

《名画の扉》

この頃の鬚光は、鳥の死骸、花やチョウなどのモチーフを描きました。そこには、鬚光のモノへの執着、執拗なまでの絵画の追求がみられます。(小此木)